

【ねがいましては】

平成13年9月3日

第137号

KYOWA SCHOOL

「思い」

その子の心が隣りの子の心にそっと触れる。ぬくもりが伝わる。今までにない、味わったことのない「気持」が心だけではない体全体にまで広がります。

何かわからないけど、うれしくてうれしくて仕方のない気持が全身を支配します。

きっとキャンプに参加した子たちは、こんな気持を皆感じているのだと思います。

子供たちは、まだまだ言葉が少ない。言葉で表現する変わりに、生活の中で「助け合う」という形で表現しようとします。

このことが「おもいやりの渡しちこ」になり、人間形成の重要な部分を築きあげてゆくのではないでしょうか。

今年のキャンプで特に光っていたのは、中3の受験生達が全員参加してくれたこと。

お姉さんとしての存在感たっぷりに、すぐに小さい子達と友達になり遊んでいる風景。

他の団体さんの子供達とも友達になって、写真！

夕食は、とてもとても美味しいものばかりで、評価は「A」

発熱した子にやさしい声をかける子。中1の子は、いつもいつもいろんな子の心配をして、声をかける。なかなか出来ないこと。私は中3以上の子達にねぎらってあげるよう頼みました。一生懸命に部屋の中からは、真剣に語り合う言葉がぼろぼろとこぼれてきます。

生きるということを、心というものを語っています。普段出来ないことを熱く熱く語っています。きっと今まで以上にまじめさんになったと思います。

北海道に引っ越しても、やってきてくれた5年生。

同級生のふたりがちょっとしたトラブルを起こして、その一人の子が、「私達のつまらないことで、いやな気持にさせてごめんね。」の言葉に、北海道の子は大泣きしたそうです。うれしかったんですね。帰りの羽田空港は、みんなで送りに行きました。よくある光景なのですが、飛行機に向かって「さようならー」を言いました。お母様のEメールの中に、「飛行機の中では、娘は涙ぐんでいたようです。」とのこと。来年も必ず行くと言っているそうです。ありがとね。

いつも全体把握に努め、身を粉にして助けてくれた高校生。OLさん。社会人の方々。

ひとつの社会が作られている中で、いつも繊細なアンテナを使い、気配りに余念がなかったですね。この気配りこそ、今の若者たちからどんどん失われているものではないでしょうか。実によく動いてくださいました。

私はといえば、相変わらずののーんびりやさんを決め込んで・・・・。

動いたとすれば、ボートと野球くらいかな。ボートは、初めておしりにかきぶたが出来ました。それでも筋肉痛にならなかったのは、若いのか、老化が進んでいるのか？

今、目の前では、受験生達が真剣に机に向かっています。誰が言うでもない、真剣な空気が漂っています。私は命令はしません。「こうしたほうがいいかもね」的なアドバイスはしますが、最終決断は、彼女達が下します。実に、実にまじめに生きようとする「心」が痛いほど伝わってきます。わからなければ、即座に質問をぶつけてきます。この、心の壁を完全に取り払ったような雰囲気は、きっとこのキャンプがあったからなのだと思います。

心がきれいになること、それがどれだけパワーを生み出すか、改めて確認できました。

勉強道具は、一切持ち込み禁止の4泊5日の中には、これだけの「心」を育てるパワーがみな

ぎっています。

その全てが皆、ここに参加された一人一人の心根の結晶であることを報告したいと思います。キャンプ場のスタッフの皆さんに生徒全員がかわいがられ、友達になり、「またねー！」と言いつつキャンプ場を後にしました。

このCD-ROMをご覧になった皆さん全てが、心が温かくなつたことだと思います。

「君がいれば」「しあわせさん」「好き！」も、KYOWA SCHOOLが夢としているものを物語にしています。あわせてお楽しみください。ありがとうございました。

追伸・・このCD-ROMの製作にあたり、高校生、石田樹里さんの大きな大きな力をいただきました。

ありがとうございました。あなたは、この一年、最も成長しましたね！これからも、思いやりをたくさんの人たちに届けてください。キャンプ2日前からうれしくてうれしくて寝られなかつたこと、私への大きなプレゼントです。大事にします。

今回の「ねがいましては」は、KYOWA SCHOOL CAMP 2001 CD-ROM の、あとがきより引用させていただきました。600枚にわたる写真は、スライドショウで見ることができます。子供達の生き生きとした表情は、きっと普段の生活の中ではちょっと見られない表情です。これが本物の表情なのだなと思っております。